

小倉記念病院 循環器内科だより

つなぐ

Vol.36

2020.10月

2020年7月、新たに保険償還されたICDを利用した植込み型除細動器移植術が日本で初めて当院で施行された。

これまで不整脈を起こす原因である乱れた脈を整えるために、ICDから送り出される電気信号の設定は医師が手動で設定していた。この設定が綺麗に決まっていれば不整脈を止めることができるが、患者さんの症状の変化などで当初の設定では対応できない症例が少なからずある。

今回登場した新たなICDは、患者さんの脈拍の状態を機械が判別し、適切な電気刺激を自動調整して与えることが特長。新たに搭載されたiATP治療アルゴリズムにより、痛みのない抗頻拍ペーシングを用いることで、痛みを伴うショック療法の回数の低減を図りながら、それぞれの患者さんに適切な治療を行うことができる。またスマートフォンを用いた遠隔モニタリング機能が搭載されており、タイムリーに現在の状態や設定情報を確認することが可能になっている。新型コロナウイルスの状況下においても、必要とされる外来の回数を減らせる可能性がある。

年々、不整脈へのデバイス治療は増え続けている。より安全により確実に新しい医療と地域の生活者をつなぐ架け橋になるためには、医療機器の進化だけでなく私たちの医療技術も同時に進化していく必要がある。



第45回

小倉循環器内科セミナー

2020年 10月22日(木) 18:00~19:00



心不全治療における ARNIの位置づけ

座長 / 小倉記念病院 副院長 循環器内科主任部長 安藤 献児



岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
循環器内科学 教授
伊藤 浩 先生

参加方法



Zoomによる
web参加のみとなります!

zoomの事前登録は不要ですが、
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。



PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研究会→④Zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで
いただくと参加が可能になります。

